

土木施設の伝統工法を活かした 歴史的風致の維持・向上



防災・メンテナンス基盤研究センター

緑化生態研究室 研究官 (博士(工学)) 西村 亮彦 研究官 曾根 直幸 室長 栗原 正夫

(キーワード) 歴史まちづくり、歴まち計画、伝統工法、土木施設、データベース

1. はじめに

国交省では、2008年の「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」（通称：歴史まちづくり法）成立以降、全国における歴史まちづくりの取り組みを支援している。国総研でも、歴史まちづくり法の運用改善に資する技術的支援を進めるために、歴史的風致の維持向上に係る技術的配慮事項、歴史的風致維持向上計画（通称：歴まち計画）の進行管理・評価制度の設計、災害時における歴史的風致の維持に関する研究等を行ってきた。

近年、歴史的価値を有する土木施設について、まちづくりへの活用を視野に入れた多面的評価が高まる中、保全活用に係る技術の構築が課題として浮き彫りにされてきた。また、狭義の文化財ではないものの、歴史的町並みを構成する一般土木施設の整備についても、土木施設自体や地区の歴史的価値に応じて、適切な工法を選択し、まちづくりへと効果的に結び付ける必要が生じている。そこで、歴史的町並みを構成する土木施設について、伝統工法の歴史的、地域的な展開を整理するとともに、歴まち計画認定都市における補修・整備の実態把握に取り組んでいる。

2. 伝統工法の調査

2013年度は西日本、2014年度は東日本を対象に、舗装、石積み、塀・垣類、用水施設、煉瓦構造物に用いられる伝統工法の歴史的、地域的な展開を、文献調査、識者へのヒアリング、及び現地調査に基づいて整理した。気候風土や地場材の性質に応じた地域固有の工法について、その技術的な特徴と時代に応じた変遷を明らかにすることで、現代の補修・整備におけるオーセンティシティの拠り所となる基礎情報の収集・整理に取り組んでいる。

また、現代的、実用的なニーズに対応しながら、地域性を考慮した土木施設の補修・整備を実施する上での工夫についても、調査・分析を行っている。歴まち計画認定都市における歴史的価値の高い土木施設の補修・整備について、工法選定のプロセス、採用された工法の特徴、整備の効果を分析している。さらには、伝統工法の基盤となる技術の継承を支援するべく、金沢職人大学校に代表される組織的な学びの場や、講習会を通じた自主的な学びの場について、調査・分析を行っている。



写真 左) 仙台城の石垣修復、右) 金沢職人大学校の生徒による土塀修復と薦掛け

3. データベースの作成

土木施設の伝統工法に関する調査・研究と並行して、全国の歴まち計画認定都市における歴史まちづくりの取り組みに関する情報を、一元的に集約したデータベースの構築に取り組んでいる。歴まち計画認定都市間の情報共有を図るだけでなく、一般向けに歴史まちづくりの認知度を上げるとともに、観光関係の事業者にとって有用な情報を提供することを目指している。本データベースの情報については、歴史まちづくり関係者から一般まで広く参照されるべく、国総研HP内で公開することを検討している。

【参考】

木村優介ほか：歴史的な土木施設における伝統的工法の活用方策～歴史的風致維持向上計画認定都市の取組を例に～、土木技術資料, Vol. 57, No. 1, pp. 42-45, 2015.